

第6学年 体育科学習指導案

指導者

1 単元名 「走り高跳び」(全6時間)

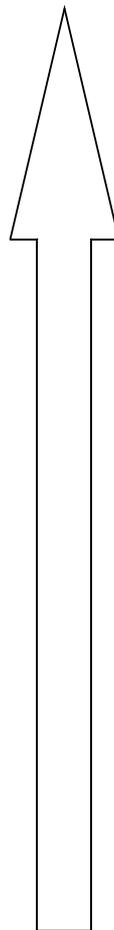
2 学習を進めるにあたって

めざす子どもの姿

- リズミカルな助走から片足で踏み切って跳ぶことができる子ども(技能)
- 安全に気をつけて進んで運動に取り組み、友達との関わり合いの中で走り高跳びの楽しさや跳べた喜びを感じることができる子ども(態度)
- 走り高跳びの技のポイントや自分のつまずきを知って課題をもち、自己の課題に合った場や練習方法を選択することができる子ども(思考・判断)

こんな教材で こんな学習過程で

- 助走をして踏み切り、どれだけ高く跳べるのか、自己の記録に挑戦したり、友達と競争したりすることが楽しい活動である。
- 学習の第1時に、身長と50m走の記録からノモグラムを使って、自分のめやすを決める活動を設定する。また、試しの活動を通して自分の利き足がどちらか、自分の課題はどんな所なのかを考えさせていく。
- 本単元をステージ型の学習過程とし、めあて1では、チームで競争をしながら走り高跳びを楽しむ。また、めあて2では、自分の課題や記録に挑戦して楽しんでいけるよう設定する。
- 走り高跳びの基礎・基本となる動きの感覚を身につけるために、ジャンプタイムの毎時間の学習始めに設定する。



こんな支援で

- ① 評価規準の活用
運動の特性や児童の実態を踏まえ、評価規準を設定し、個に応じた支援を行う。
- ② 場の作り方
第1時目に協力して安全な場作りができるように提示する。めあて1では、全ての場を経験できるようにする。めあて2では、自分の課題にあった場を選択させて、取り組むようにする。
- ③ めあてのめたせ方
学習ノートを活用して自分の力の伸びを確かめていく。めあて1では、楽しみや自分の課題を意識できるようにする。めあて2では、自分の課題から練習の場を選択し、明記できるようにしておく。
- ④ 教師の声かけ
めあて1では、動きを楽しんでいる子を紹介したり、跳ぶポイントなどを子どもたちから聞いて全体に広めていく。めあて2では、場を回りながら課題解決に向けた活動ができるように支援や助言をしていく。
- ⑤ アドバイスカードの活用
子どもの課題に応じて提示ができるようにする。また、友達の動きを見る視点も明記しておく。

こんな子どもだから

- 体育の学習が好き・どちらかといえば好きの子どもが26名。
- 走り高跳びが好き・どちらかといえば好きの子どもが22名。
- 走り高跳びの学習で楽しいと感じるのは「記録が伸びること」「高跳びの学習が楽しかったこと」「跳び方を工夫したこと」等あげている。一方、嫌だなと感じるのは「記録が伸びないこと」「面白くなかったこと」「跳ぶことが怖いこと」をあげている。
- 走り高跳びで高く跳ぶために必要なこととして、「助走(12名)」「手を振って足を曲げる(5名)」と考えている子もいるが「気持ち(5名)が大事」と心理面をあげている子も少なくない。
- マット運動の学習では、できる技で楽しんだり、できそうな技に意欲的に挑戦する姿が見られた。
- できそうな技に挑戦するときに、友達とアドバイスをしながら取り組む姿も見られた。
- 準備や片付けを積極的に取り組む子もいるが、渋々する子もいる。また、自分のめあてを意識せずに活動したり、場の工夫ができなかつたりする子もいる。

第6学年 体育科学習指導案（本時案）

指導者

1 本時 平成24年 月 日（ ） 公開 I 本校運動場にて

2 本時の中心となる評価規準

- 自分の課題解決に向けた場で、走り高跳びの動きのポイントを意識している。（思考判断）
- 友達とアドバイスをし合って、課題解決に向けて進んで活動をしている。（態度）

3 本時学習を進めるにあたって

前時までに子どもたちは、自分のめやすの記録を設定し、めあて1でグループ対抗で走り高跳びを楽しんできた。その中で、きき足を確かめたり、記録向上のためのアドバイスや応援をしたりする姿が見られた。そして、前時より自分の課題に合った場を選択して、記録に挑戦したり練習したりするめあて2の活動に入った。

そこで本時では、自分の課題解決のために練習や競争をしながら、走り高跳びに取り組ませたい。そのために、学習ノートにめあてや練習の場を書かせ、課題別グループを作り、相互に声かけができるようにしていく。また、めあて意識がまだ十分とはいえない子どもや記録の伸びが停滞している子どもの活動を中心にアドバイスカードを提示したり、声かけをしたりする支援を行っていくことで、記録が伸びる喜びや走り高跳びの楽しさを味わわせていきたい。

4 準備

高跳びスタンド（7対）・高跳び用バー（6本）・大型洗濯ばさみ（7対分）・マット・踏み切り板
ケンステップ・ゴムひも・紅白玉・石灰・ポイントカード・掲示物・学習ノート（子ども）・CD

5 展開（5/6時）

分	子どもの主な学習活動	教師の支援活動
0	1 学習の準備とめあての確認をする。 ○協力して、安全な場作りを行う。 ○ジャンプタイムを行う。	○安全な場作りができていないか確かめる。 ○グループで協力したり、曲に合わせてリズムカルに取り組んだりしている子を称賛していく。
8	(ゴム跳び・ポンポン跳び・1-2-ジャンプ) ○本時のめあてと活動する場を確かめる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> めあて2 より高く跳べるように、自分の課題にあった練習をしたり、友達と競争したりして、走り高跳びを楽しもう。 </div>	
	2 走り高跳びをする。 【予想される主な活動例】 ・フラットの場（いつでも記録が測定できる） ・競争の場（友達と競争して楽しむ） ・5歩助走の場（ケンステップや印をつけて、助走する） ・7歩助走の場（ケンステップや印をつけて、助走する） ・踏み切り板の場（踏み切りを強くし、足を胸に押し上げる） ・ななめバー（バーに足が当たらない）	※自分の課題解決に向けた場で、走り高跳びの動きのポイントを意識している。（観察） ○安全に気をつけて跳び始めるよう声かけをしていく。 ○アドバイスカードを活用して助言や支援をしていく。 ○アドバイスカードは各場に用意し、いつでも確かめられるようにしておく。 ○バーに苦手意識がある子には、ゴムひもの場を設定し、跳ぶタイミングをつかませていく。 ※友達とアドバイスをし合って、課題解決に向けて進んで活動をしている。（観察） ○友達同士で教え合ったり、記録をとり合ったりしている子に、励ましや称賛の声かけをしていく。
35	3 今日の記録をとる。 ○友達と協力して、今日の記録をとる。 ○一人2回の試技で行う。	○すべての場をフラットの場に変更してから始めるように声かけをする。
40	4 学習のまとめをして、後片付けをする。 ○学習ノートを記入し、全体でふり返る。 ○協力して後片付けをする。	○記録が伸びたことや気づいた工夫点などを話し合い、次時の活動の意欲付けを行う。 ○安全に片付けているか確認していく。